

軟骨伝導集音器 のご紹介

高齢になって聴力が低下した場合には、聴力を補うために「補聴器」や「集音器」を使用することになります。

「補聴器」は「管理医療機器」であり、医師の診断の後、厚生労働省の認可を受けている店舗での購入に限定され、聴力の測定や耳穴の形状に合わせる等、細かい調整が必要となることから、購入までに時間がかかり、高価（基本的には十万円台）になります。

「集音器」は音を大きくする「音響機器」であるため、手軽に購入できて比較的安価（基本的には万円台）です。

また、「集音器」には頭蓋骨を振動させる「骨伝導方式」と耳介（「耳」と呼ぶ部分）の軟骨を振動させることで音を伝える「軟骨伝導方式」があります。

SKサポートでは、高齢により聴力が低下した被後見人の方との言葉での意思疎通の機会を得るため、「軟骨伝導集音器」（耳の中にイヤホン差し込まない方式）を購入して、聴力がほとんど無い被後見人の方（施設に入居）に装着してもらったところ、久しぶりに言葉での会話ができ、ご本人は非常に喜んでいました。

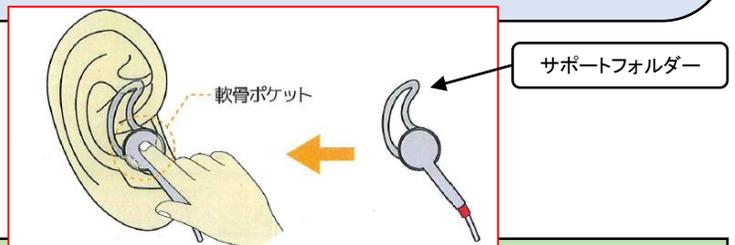
後日談になりますが、施設職員の方が「軟骨伝導集音器」を装着したご本人に「聞こえますか？」と尋ねたところ、「聞こえません」とおっしゃったとのことでした。

また、メーカーの方にお聞きしたところ、下記の回答がありました。

○耳の周りの軟骨を通して音を伝えるので、鼓膜が破れていても大丈夫。

○老人性の難聴には効果があるが、突発性難聴のような病気の場合は、重度になると聞こえない場合がある。

「軟骨伝導集音器」を試しに装着したらこんな感じでした



通常のイヤホンのように耳の中に入れるのではないので、イヤホンのサポートフォルダーを取り付けても、慣れないと一人では耳への装着は難しいですが、指でイヤホン軽く抑えると耳の周りの軟骨に接するので良く聞こえるようになりました。

イヤホンを通した音声は耳の周りの軟骨を震わせるため、通常の音声とは異なり、多少響く感じでしたっきりと聞こえました。

相談会の模様

2023年10月10日（火）に城南信用金庫で開催した相談会にSKサポートも参加し、多くのお客様のご相談に対応させていただきました。



対面での相談



オンラインでの相談



アルツハイマー病の治療薬「レカネマブ」の投与開始

認知症の中で最も多いアルツハイマー病は、「アミロイドβ（ベータ）」というたんぱく質が脳の中に蓄積するために発症すると考えられており、今までのアルツハイマー病の治療には、認知症の症状を和らげる薬が使用されていましたが、2023年12月から病状の進行を遅らせることのできる新薬の投与（点滴）が始まりました。この新薬とは、日本（エーザイ）とアメリカ（バイオジェン）の医薬品メーカーが開発した「レカネマブ（商品名：レケンビ）」です。

この「レカネマブ」は、「アミロイドβ」に付着して取り除く作用があるということで、2週間に1度の頻度で一年半をメドに継続して投与することにより、病状の進行を半年程度遅らせる効果があり、さらにアルツハイマー病の早期のうちに投与した方が効果が高いとのことです。

しかしながら、「レカネマブ」を投与すると、脳の出血や腫れ等の副作用があることも報告されており、ある程度リスクを伴う治療薬であるという認識が必要です。

また、「レカネマブ」は患者の体重が重くなると投与量も多くなり、費用も高額（体重50kgの場合で年間費用が約300万円）になるため、「高額療養費制度」が適用されるとのことです。

業務の状況

SKサポートの業務は着実に伸展しています

累計件数（各月末）		2023年 12月	2023年 9月
法定後見受任		42	41
類 型	後見	31	30
	保佐	6	6
	補助	5	5
任意後見契約（後见人指定）		159	150
種 類	見守り業務	2	2
	委任業務	8	8
	任意後見業務	2	1

累計件数（各月末）	2023年 12月	2023年 9月
遺言執行者指定	606	579
遺言執行終了	52	51
死後事務委任契約	72	67
死後事務終了	14	14
家族信託契約書作成支援	570	541

（補正後の計数を使用）

